

岩 刑 事 第 9 号
岩 生 安 第 9 号
令和5年2月1日

ふるさと振興部

学事振興課総括課長 殿

警察本部

刑 事 部 捜 査 第 一 課 長

生活安全部人身安全少年課長

代表者聴取（司法面接）を見据えた児童からの聞き取り要領の周知について（依頼）
余寒厳しき折、貴課にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当県警察では、児童被害の性犯罪や児童虐待を認知した際、被害児童の精神的負担を軽減し、供述の信用性を確保することを目的として、代表者聴取（司法面接）という手法による被害児童からの事情聴取を行っております。代表者聴取とは、検察庁・警察・児童相談所の3者が一堂に会して、関係機関の代表者1名が、誘導を排除した聞き取り方法（客観的聴取技法）により被害児童からの聞き取りを行い、その状況を録音録画するとともに、面接状況をリアルタイムで関係機関がモニタリングして情報共有し、事案対処の協議を行う取組みであり、平成27年10月から運用が開始されております。

代表者聴取が必要な事案の認知の端緒として、被害児童が通学する学校の養護教諭や担任の教員に対して一番最初に被害を打ち明けるケースが多くみられます。そこで、教職員の皆様に向け、「代表者聴取とは何か」「被害児童から被害を打ち明けられた際の対応方法について」「誘導を排除した聞き取り方法について」等をまとめた資料を作成いたしました。

代表者聴取で得られた被害児童の供述は、後に事件化となった場合、重要な証拠となる可能性があります。しかし、代表者聴取が行われる前の段階で、何度も話を聞かれたり、誘導的な聞き取りが行われたりすることによって、児童の記憶が変遷してしまい、代表者聴取において、正確な情報が得られないおそれがあります。

被害事実を正確に聞き出し、被害児童の権利利益を擁護するための措置に繋げるために、代表者聴取を見据えた児童からの聞き取り要領について、対象の私立学校に対して周知していただくとともに、児童から虐待や性犯罪被害の訴えを受けた際には、早期に警察又は児童相談所へ相談・通報をするよう御指導を徹底していただくよう、お願い申し上げます。

担当：捜査第一課 性犯罪捜査指導係 高橋
☎ 019-653-0110（内線4155）